

特集

大学が掲げる人材像を 実現する 教育プログラムの構築

「育成をめざす人材像」は、

自学がこうありたいという理念、教育目標を示すものだ。

大学には、掲げた目標の水準に学生を到達させて、社会に送り出す責任がある。

その責任を果たすには、学生中心という価値観の下、

全学・学部・学科などの単位で、

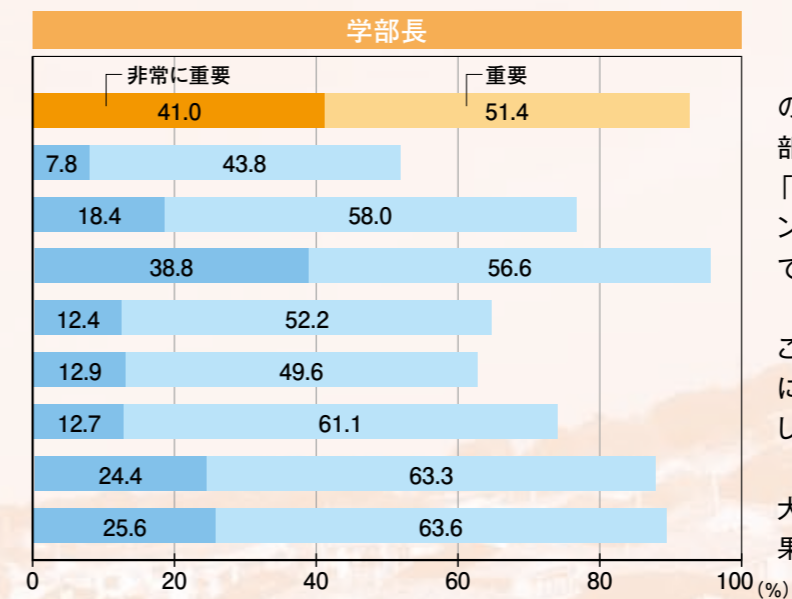
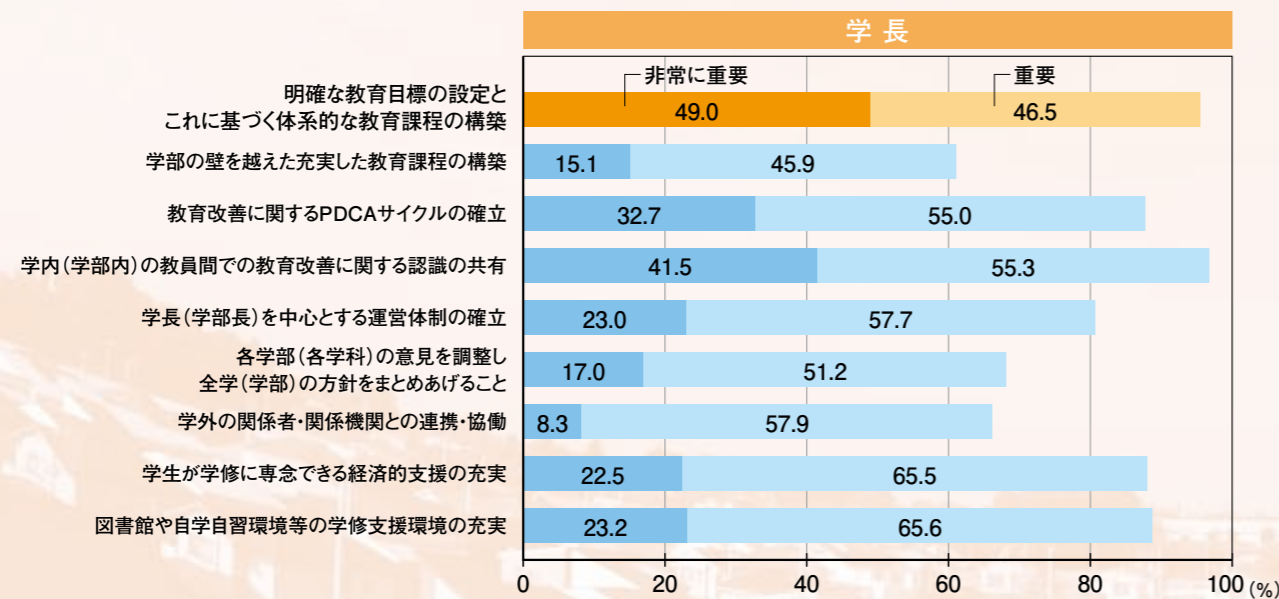
「育成をめざす人材像」と整合性のある

体系的な教育プログラムが構築されていることが前提となる。

教学マネジメント特集第二弾の本号では、

教育プログラムに求められる条件、構築のプロセスを紹介する。

教学マネジメントを行ううえで学長、学部長が重要と考える事項



中央教育審議会大学分科会は、学士課程教育の現状と課題について、全国の大学の学長、学部長を対象にアンケート調査を行った。図表は「学士課程教育を改善するための教学マネジメントにおいて何が重要か」の回答をまとめたものである。

調査結果によると、明確な教育目標の設定とこれに基づく体系的な教育課程の構築が「非常に重要」と考える学長・学部長は半数近くに達し、「重要」と合わせると9割を超える。

本特集で扱う内容が、多くの大学に共通した大きな課題と捉えられていることが、この調査結果からも読み取れる。

出典／文部科学省「学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査」(2012年5～6月) 学長・学部長に共通の設問のみ記載。()内は学部長に対する設問文